



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2018年 No.4
(通巻57号)
12月18日発行

2018年もあとわずかとなり、皆様方には何かとお忙しくお過ごしのことと思います。
今年度最後のニュースレターは、秋の活動の報告を中心にお届けいたします。
おかげ様でバオバブの会は今年度も多彩な活動を展開することができました。
ご寄附、情報提供、販売活動ご協力、イベント時のスタッフ参加、商品のご購入等々、
様々な形でのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。
新年度もよろしく願いいたします。
寒い毎日が続いております。
体調に気をつけられ、お元気で新年をお迎えください。

活 動 報 告

*** セネガルウィーク ***

期間：2018年8月21日（火）～8月30日（木）

場所：ゴスペルスクエア

主催：NGOゴスペル広場

昨年に引き続き、NGOゴスペル広場の本拠、ゴスペルスクエア渋谷スタジオに、セネガルの女性グループ、ジゲン・ヌファルルー製作の「ケベサック」のバッグ、ポーチ、現地で仕入れたアクセサリなどを並べ、セネガルウィークを開催していただきました。レッスンのあった5日間で、昨年の倍の商品のご購入がありました。

搬入と搬出の日にはディウフ会長がうかがい、支援への感謝と活動報告を行いました。

NGOゴスペル広場、ゴスペルスクエアの皆様、ありがとうございました。

*** グローバルサンデーマーケット ***

日時：2018年9月16日（日）10：00～17：00

場所：日本大通り

主催：一般社団法人横浜青年会議所

横浜スタジアムから神奈川県庁本庁舎までの日本大通りを封鎖して、日本と海外との交流イベント、グローバルサンデーマーケットが行われました。朝方の雨も上がり、大勢の来場者でにぎわいました。
バオバブの会は、ケベサックのバッグとポーチ、アクセサリなどを販売しました。

***** 中区多文化フェスタ *****

日時：9月23日（日）11：00～15：30

場所：横浜市開港記念館

主催：なか国際交流ラウンジ

横浜市中区を中心に、老若男女問わず地域の多様な世代が参加した多文化交流イベントです。
バオバブの会では世界の雑貨販売コーナーで、「ケベサック」やアクセサリー等の物販を行いました。

***** よこはま国際フェスタ2018 *****

日時：10月6日（土）、7日（日）、8日（月・祝）（バオバブの会は7日、8日出展）

場所：みなとみらい グランモール公園

主催：よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム よこはま国際フェスタ2018プロジェクト

バオバブの会は食販にて出展。セネガルの煮込み料理のヤーサやマーフェをはさんだサンドイッチ、ココナツとレーズンをたっぷり入れたベニエ（ドーナツ）、甘いミントティーのアターヤを販売しました。天候に恵まれ、両日とも午後早々に完売しました。

***** セネガル物語～グリオの宴～ *****

日時：2018年10月19日（金）開場18：30 開演19：00

場所：横浜にぎわい座 のげチャーレ

主催：AFRICULTURE

セネガルから来日中のグリオ歌手サリウ・ニング氏のコンサートにて、「ケベサック」を販売しました。
ブジュ・シソコ氏のコラ（アフリカンハープ）、ンボイ・ジャバイ氏のサバル（セネガル伝承打楽器）による伴奏に合わせた美しく力強い歌声を堪能しました。

***** Autumn Charity Concert ラテン音楽へのいざない 中南米の情熱 *****

日時：2018年10月29日（月）13：00 開場 13：00 開演

場所：横浜市神奈川区民文化センター「かなつく」ホール

主催：国際交流ボランティア「みなと」グループ

来年で40周年を迎えるとともに活動を終了する、国際交流ボランティア「みなと」グループの、第18回にして最後のチャリティーコンサート。世界的ラテンギタリストのIrving Koji氏を迎えて開催されました。

冒頭で、他の支援団体と共に、ディウフ会長も長年にわたる支援に感謝の言葉を述べました。

会場は満員で補助席が出され、また、休憩時間のロビーは、みなとグループの活動を振り返る展示に見入ったり、挨拶を交わす人々で賑わいました。

***** ほ도가や国際フェスタ *****

日時：2018年11月18日（日）10：00～15：00

場所：横浜市岩間市民プラザ

主催：ほ도가や国際交流ラウンジ

年に一度、保土ヶ谷区で開催される国際交流イベントです。今年も、日本語スピーチコンテスト、着物体験、世界の音楽・ダンスコンサートなど、多彩なプログラムで行われました。

バオバブの会は、小物販売コーナーで、「ケベサック」とアフリカ関連本を販売しました。

***** AFRICAN CONCERT 2 *****

日時：12月2日（日）開場18：30 開演19：00

場所：武蔵野スイングホール

主催：アブドゥ・バイファル

セネガル、ギニア、ガーナ、キューバから来日し、都内でアフリカンダンスやドラムの講師をするミュージシャンが終結し、クラスごとに成果を発表するイベントにて「ケベサック」を販売しました。アフリカンドラムの音や応援の声の渦の中、いずれも素晴らしいパフォーマンスが繰り広げられました。

ディウフ会長の活動

***** 異文化理解講座～テランガの国～セネガル**

日時：2018年9月30日（日）10：30～12：00

場所：横浜市岩間市民プラザ 3階 レクチャールーム

主催：ほ도가や国際交流ラウンジ

ほ도가や国際交流ラウンジが年に2回開催する異文化理解講座。今回はセネガル編で、ディウフ会長が講師を務めました。セネガルの民芸品や書籍が飾られた会場に、民族衣装に身を包んだディウフ会長が登場。スライドを使い、セネガルの政治、宗教、文化、人々の暮らしなど、様々な面からセネガルを紹介しました。

30名の参加者は、ベニエとアターヤを味わいながら、講座を楽しみました。

***** WORLD FOOD NIGHT 2018 —ゼロハンガーに向けて— *****

日時：2018年10月12日（金）19：00～21：00

場所：Shibaura House（東京都港区 芝浦3-15-4）

主催：認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

10月の「世界食料デー」にあわせて、国連FAOと食にかかわるNGOが合同で開催したイベント。

ディウフ会長は、セネガルの食文化を紹介し、バオバブの会の活動を例に、学校教育の重要性や教育と食とのつながりについて話しました。

***** セネガルデー *****

日時：2018年10月28日（日）11:30~15:30

場所：CASACO（横浜市西区東が丘23-1）

主催：AFRICULTURE

音楽（サリウ・ニング氏によるスペシャルライブ）とトークと食でセネガルを丸ごと体験するイベント。
ディウフ会長は、AFRICULTURE代表でセネガル在住のニング・もえこさんとトークセッション。セネガルの伝統文化から「今」を語りました。

***** 横浜翠陵高等学校訪問 *****

11月28日（水）と29日（木）の2日間、横浜市緑区にある私立横浜翠陵高等学校を訪問しました。

ディウフ会長は、2011年の6月と7月、2013年の12月にも同校を訪問し、国際理解の授業協力を行っています。

今回は、2年生38人と3年生43人の前で、「セネガルの若者の暮らし」をテーマに話しました。生徒たちは、セネガルの教育制度、イスラム教育、政治への関心、また、両親との関係など、同世代の生活ぶりに興味深く耳を傾けていました。

イベント情報

***** よこはま国際フォーラム2019 *****

日時：2019年2月2日（土）3日（日） 11:00~19:00

場所：JICA横浜

主催：よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会

よこはま国際フォーラム2019プロジェクト

国際協力・多文化共生に関わる団体が、2日間にわたって、講演会・報告会・ワークショップなど多彩な講座を開催します。

バオバブの会は、2019年2月3日（日）15:20~17:10、4Fのやまゆりにて、ディウフ会長が「セネガルの伝統的な民主主義とイスラムの融合ーセネガルの人々の寛容性はどこからくるのか」と題したセミナーを行います。

参加申し込み方法などの詳細は、次回のニューズレターでお知らせいたします。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第28回 HAYUWAI HIWUWAI (ハユワイ ヒウワイ)

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

これはセネガルのウォロフの人々のことわざで、<ある人々の不幸は、他の人々の幸福>という意味です。

最近、セネガルでは「国は遂に発展への道を進んでいる」という希望が生まれました。しかし、もしそれがある人々のための希望だとしたら、他の人々にとっては恐怖の種となります。それはなぜでしょうか。

悪い習慣はすぐ身に付くものです。そして、アフリカには<習慣は警戒心をゆるめさせる>ということわざがありますが、これらはまさしく現在のセネガルの政治指導者たちにあてはまるものです。彼らは国のお金を自分のもののように使うという習慣を身に付けたので、それを隠すこともなく、あからさまにやるようになりました。いや、彼らはもう隠すことができないということかもしれません。<食べ過ぎた者は、しまいには吐きだす>とコンゴの人々が言いますので。

彼らの党のパーティーで配るお金、自分たちや党の幹部に贈るデラックスな自動車等々は、彼らが生きる豪華な生活を物語る印です。

また、何人かの勇敢なジャーナリストが、セネガルで現在広がっているインターネット等さまざまなメディアを使って報道したおかげで、放漫財政、贈収賄、縁故登用、特定の相手の庇護といった、信じられないほどの金融汚職の常習注1が明らかになりました。

しかし、ここでは、このような事実の詳細にまで入っていくことはできません。それは私たちの目的ではないからです。今回のコラムの主題は、20年前からバオバブの会を通してセネガルの発展を助けるために活動してくださっている皆様に、セネガルが正しい発展の道を進む希望がようやく誕生したことを知らせることです。

セネガルの人々が2012年に「飾り気のない、ガラス張りの政治運営」を約束したマッキー・サル氏を大統領に選んだことを覚えていらっしゃるでしょうか？今日、それは残念な結果に終わりました。セネガルの人々は、1960年のフランスからの独立以来、4度目の失望を味わっています。4人の大統領と4つの希望が、すべて失望になってしまったのです。

あれから7年、次の大統領選挙は来年の2月24日に予定されています。現大統領のマッキー・サル氏とそとのとりまきは、莫大な資金を投入し、独立しているとみなされている司法当局をコントロールして、再選を保証する準備を整えました。

どのようにやったのでしょうか。

セネガルには多くの政党がありますので、たくさん的大統領候補が現れる可能性があります。けれども、彼らによれば、対抗馬として問題になるのは、ダカール市長のハリファ・サール氏と前の大統領の息子であるカリム・ウッド氏の二人だけでした。したがって、マッキー・サル氏が再選するためには、この二人をふるい落とせばよいということでした。

そこで彼らはやりました。

ハリファ・サル氏は、ダカール市の公金を横領したと告発され、迅速な裁判のあと投獄されました。カリム・ウッド氏は、不正な蓄財を非難され、収監されたあと、2つの条件で大統領恩赦を受けて釈放されました。セネガルを離れ、2019年2月の選挙が終わるまで帰国しない、というのと、今後いかなる政治的発言を行わない、という条件です。彼は、現在、カタールで暮らしています。

ところが、マッキー・サル氏たちは相手を間違えたのでした。

ウォロフの人々はくもし、とんでもない大物に待ち伏せされていることを知ったら、小物の待ち伏せなど諦め、逃げたことだろうにと言いますが、彼らはこのことわざを知らなかったのでしょうか、ハリファ・サルとカリム・ウッドを追い落とすとき、そのあとで、二人とは比べ物にならないほどの強力な敵となる人物がやってくるのが見えなかったのです。ネズミを狙っている猫が、トラに狙われているのを知らなかったようなものです。

その強力な敵とは、元高級官僚のウスマン・ソンコ氏でした。彼は、税及び国有財産管理官として15年間働いてきましたが、2016年8月、政府の異常な財政と金融政策を非難したために公職を追われました。

そのとき、公的な、また私的な職にある若い指導者層のグループがソンコ氏を招きました。彼らはほとんど政治的経験がなかったので、ソンコ氏に指導をあおぎたかったのです。

そして、彼らは、ソンコ氏を党首として、PASTEFパステフ（労働と倫理と友愛のためのセネガル愛国者同盟）という政党を創設しました。その目的は、60年前から国外の大国と共謀してセネガルとその国民を搾取してきた異常な政治家層を一掃することでした。

外国の大国と共謀して自国を搾取する指導者の存在は、多くのアフリカ、中央と南アメリカの国々、また、いくつかのアジアの国々に共通する問題です。

その後、ソンコ氏は、2019年2月の大統領選への出馬を表明しました。そのとき、彼は、ほとんどの人々に知られていませんでした。しかし、それ以来、彼の人気は上がり続けています。

それまで、セネガルの人々は、もう、政治家の演説を聞こうとはしませんでした。なぜなら、彼らにとって、「政治家」とは、嘘つき、泥棒、策謀家、陰謀のリーダー、腐敗墮落者の同義語になっていたからです。

ところが、今日、人々はソンコ氏の演説に注意深く耳を傾けています。すべての人々に希望を運ぶ演説、真実の声に。

＜真実とはひとさじの辛子である。顔に受けた者は目をこする＞とセネガルでは言われています。

演説の中で、ソンコ氏は、独立以来、権力を引き継いできた指導者たちを、弱さと劣等感と愛国心の欠如によって国を貧困の中にしずませたと非難します。

彼は、特に現在の指導者を非難します。国の資源を、外国、主にフランスの会社に安売りした注2、という事実を明らかにして。彼らはフランスの会社の言いなりになって、セネガル経済の80%をコントロールさせているのでした。

しかし、ソンコ氏の批判は、政治指導者だけに向けられているわけではありません。

彼はセネガル人自身の責任も告発します。奴隷主義に服従し、それに抵抗しないことで加担し、その中で自分たちの権限をわずかに維持していることを。

自らの運命を自らの手に取る、つまり、自分たちの将来を自分たちで決めていく決意が不足していること、そして、あちらこちらに援助を頼んでばかりいることを非難します。そして、自らの運命を自らの手で取ることは、主権を取り戻す注3ことから始まると言います。

また、ソンコ氏は、セネガル人の仕事への態度、働き方にも言及します。彼によると、セネガル人は働きません。したがって、働く、さらに良く働く、新しいタイプのセネガル人を育てることが必要だと言います。

こうして、彼の演説は、セネガルの人々に政治への関心を取り戻させ、新たな希望となっているのですが、一方で、現在、政権にある人々にとっては、恐怖の種となっているのです。

今や、ウスマン・ソンコ氏はただ一人の大統領選対立候補です。マッキー・サル氏の側は、相手側に、ソンコひとりよりも、10人のハリファ・サールと10人のカリフ・ウッドがいたほうが良かったと思っていることでしょう。そのほうが、票が割れて自分たちの側にいくらか有利になるからです注4。

すでに権力のある政治家であったハリファ・サール氏やカリム・ウッド氏にできたのですから、ソンコ氏のような知名度のない新人を追い落とすことなど簡単だったはずですが。ところが、彼らはこのような対抗馬の出現を全く予測していなかったのが、驚きが大きすぎたのでしょう、慌てて落とそうとしたのですが、うまくいかなかったのです。

彼らにとっての問題は他にもあります。ソンコ氏を偉大しているものは、単に彼の演説の真実性だけではないということです。彼の演説から発せられる決意だけでもありません。セネガル人は演説にはもうあきあきしていましたから。

ソンコ氏の魅力は、彼の今までの行動、やってきたものなのです。彼は正直で公明正大です。貴重な種、今日の世界の政界、特にアフリカのその中では、本当に稀な人間です。彼は言います。「私は私の国に15年間奉仕しました。国家の金庫に何10億もの金を入れました。もし、あなたが、私が自分の懐に私のものでない金を1フランでもあるのを見つけたら、私を即刻、牢屋に入れてください。」

そこで当局は何度も捜査をしましたが、ソンコを告発することはできませんでした注5。<正直は法にさえ勝る>という言葉はどこかで読んだような気がします。

ソンコ氏はまた、公明さ、搾取に終止符を打つ決意、また若さ（44歳）の他にも強みがあります。15年間の仕事により、セネガル経済の長所と弱点を完全に把握しているところです。

そして、彼は問題解決のための完全な知識を持っています。最近、「解決」という本を出版しました。その本の中で、彼は状況を分析し、繁栄のセネガル、自国の運命に責任を持つセネガル、そして国際社会の中で責任ある場を持つセネガル建設のための明確なヴィジョンを提案しています。

さらに、この本の中で披露したものを討議するために、セネガルで最も有名なジャーナリスト3人と経済評論家1人と共に公開討論を行いました。そこには、さまざまな職業と立場の数千人の人々が聴衆として参加しました。

それはまるで、見逃すことのできない、歴史的出来事のようなものでした。完璧な音響装置と静かに討論を聴く人々。実際、ひとりの政治家が彼のヴィジョンを1冊の本の中で披露することも、セネガルの歴史上、初めてでした。今までの政治家はヴィジョンなど持っていなかったからでしょう。

また、次のことも、国中の人々を驚かせました。討論のあと、彼の党の人々が会場の清掃をしたのです。つまり、ソンコ氏は、すでに、自分の党の人々に公共の福祉という意識を与え始めているということです。

次は、すべてのセネガル人にその意識を広げていくことでしょう。

これが、セネガルの未来のための大きな希望です。しかし、私にはいくつかの心配があります。ウスマン・ソニコは、西アフリカの国々の中でただひとり、次のような発言をする大統領候補です。

「もし私がセネガルの大統領になったら、この国はアフリカ金融共同体注6：から脱退するでしょう。」

「もし私が大統領になったら、石油関係でセネガルと結ばれたすべての契約は白紙に戻されるでしょう。」

「もし私が大統領になったら、外国の会社と合意したすべての免税措置は撤回されるでしょう。」

このような発言は、過去に多くの発展途上国の指導者が命を懸けてやってきたものなのです。例えば、もしセネガルでこういった政策が実行に移されたなら、セネガルの旧宗主国であるフランスは莫大な損失を蒙ることになります。そうすると、フランスは、あらゆる手段を使って、このような指導者を抹殺しようとするでしょう。そうです。フランスは、過去に、情け容赦なく、これをしてきました。ブルキナファソの大統領であったトーマス・サンカラ氏注7の例は、若い人々にも良く知られています。そのため、ソニコ氏の発言を聞くと私は不安になります。

現在のフランス大統領、エマニュエル・マクロン氏も、ソニコ氏の固い決意を瞬時も疑っていないでしょう。ソニコ氏は、最近、外国に在住するセネガル人に会うため、アメリカ合衆国、カナダ、スペイン、フランス、ベルギー、スイスを歴訪しました。彼は、その際、どこの国でも何人かの政治家と接触しましたが、フランスでだけは別でした。フランスでは、セネガル人に会ったのと、テレビのインタビューに答えただけでした。

しかし、私はわずかながら楽観もしています。マクロン氏は、2017年11月28日、ブルキナファソのワガドゥグ大学で、800人の学生を前に演説しました。その際、冒頭でトーマス・サンカラ氏を称えた後、「もはやフランスによるアフリカ政策注8はない」と宣言しました。彼は「私は、アフリカは何をするべきかと指図することはしない世代の人間だ。」と言ったのです。真摯な態度での発言でした。

私は思います。

私の世代には当たり前の「美しい言葉とそれに続く正反対の行為」という日々が変わるのなら…

フランス・アフリカ（フランスが統治するアフリカ）が本当に終わるのなら…

注1：マッキー・サル大統領の兄弟が創設した架空の石油開発会社が、油田掘削の権利を要求しました。検査官たちは、その会社の書類を分析したあと、大統領に、この会社は必要な条件を満たしていないので要求は受け入れられない、と言いました。それにもかかわらず、大統領は署名しました。大統領だけが契約に署名する資格があったからです。

その後、ジャーナリストと愛国心に溢れた石油業界で働くセネガル人たちがこの情報をインターネットで広げたおかげで、この会社は権利取得を諦めました。

注2：油田開発の許可のための入札の際、フランスの会社、トータルは、ある中国の会社とオーストラリアの会社と競争していました。中国の会社は2億5千万ドル、オーストラリアの会社は2億3千万ドルを提示しました。それに対して、トータルは1億ドルしか提示しませんでした。しかし、いつものようにトータルがその許可を手にしたのです。

担当省はこの契約の書類の公開を拒否しました。ところが、シェイク・イエリム・セックと言う名のジャーナリストが、これを調査し、明らかにしました。例えば、セネガルは、自国の石油を隣のモーリタニアより4倍も安く投げ売りしているのです。同じ品質の石油だというのに。

注3：主権を取り戻すことは、自身で経済を管理し、生産するものを選び、自由に工業化し、自然資源と生産物の値段を決め、自身の通貨を持つことです。今のところ、このすべてが我々にはできません。

注4：なぜなら、もし、彼らがハリファ・サル氏かカリム・ウッド氏によって倒されたとしても、彼らにとってはたいしたことではなく、告訴も罰金も投獄の恐れもなかったことでしょう。なぜなら、この何十年來、それぞれの状況と利害にしたがって政治の場を展開してきたのは、同じ人々だったからです。マッキー・サル氏がカリム・ウッド氏の父の内務大臣だったとき、マッキー氏とカリム氏は兄弟のようなものではなかったでしょうか。また、かつてのカリム氏の仲間の多くが、今日、マッキー氏と共に政府の中核にいます。

注5：誰かにお金をわたして、ある豪壮な建物を「これはオスマン・ソンコのものだ」と言わせようとしたようです。その人は拒否したので成功しなかったのですが。

この企みの目的は、言うまでもなく、ソンコ氏を選挙戦から追い落とすためでした。彼を拘束し、「捜査」を行い、クロにしろシロにしろその結果が出るときには、大統領選挙は終わっていたでしょうから。

注6：アフリカ金融共同体とは、1945年、フランスによって旧植民地に対して強要された通貨制度で、共通通貨としてFcfa（セーファフラン）が使われています。レートはフランスが定め、ユーロに連動します（1ユーロ＝635フランセーファ）。そして貨幣はフランスで作られ、加盟国はそれをフランスから購入します。

あるセネガルの経済評論家が、この制度が始まって以来、加盟国は貨幣製造のためにフランスにいくら支払ってきたのか、を計算しました。すると、その総額の1%で、加盟国それぞれの国で貨幣を製造する機械が購入できることがわかりました。

注7：オートボルタ（現ブルキナファソ）の第5代大統領。劇的な生涯とその革命的な理念から、「アフリカのチェ・ゲバラ」と呼ばれました。大統領在任中には、貧困と腐敗の一掃、教育と社会保障制度の改善、砂漠の緑化事業、女性の教育推進と登用などを進め、国民から多くの支持を得ましたが、旧宗主国のフランスからは危険人物とみなされました。そして、1987年10月15日に盟友コンパオレが起こしたクーデターの際、37歳で暗殺されました。直後からフランスの指示が噂されていましたが、マクロン大統領は、先述した2017年11月28日の演説の中で、ブルキナファソの現大統領との共同会見で約束した、「サンカラ暗殺に関する文書を公開し、司法当局の裁判の用に供すること」を確認しました。

注8：「la FRANCE-AFRIQUE」と呼ばれる、フランスによるアフリカ政策とは、「旧フランス植民地であった国々は、政治・経済についてのすべての決定にフランスの承認を必要とする」というものです。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35
TEL&FAX 045-373-0059

ホームページ:<http://the-baobab.org>

フェイスブック:[バオバブの会The Baobab Association](https://www.facebook.com/the.baobab.association)
URL:<http://www.facebook.com/the.baobab.association>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673
ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215